
にゃんこ(?)に転生ですか？ よろしい、ならば戦争(ネギまに転生)だ

ミケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

にゃんこ(?)に転生ですか？ よろしい、ならば戦争(ネギまに転生)だ

【Nコード】

N0406Y

【作者名】

ミケ

【あらすじ】

死んだ(殺された?) ネギまに転生 化け猫無双の話です。

よろしい、ならばテンプレだ(1)(前書き)

初投稿です。

駄文です。

見切り発車です。

文才皆無です。

ですが、後悔はしていない。キリッ

Q 泳げますか？

A 子猫なので溺れます

Q この状況で冷静になれますか？

A 無理ですorz

Q 誰のせいですか？

A 確実にあいつのせいです(怒)

Q 今、一番やりたいことは？

A この状況から抜け出してあいつにO・H・A・N・A・S・H・I・
したいですね~~~~~(虚ろな瞳)

「(本当にどうしてこうなった!!!!)」

それは遡ること数時間前

「知らない天井だ」

言わなければいけない気がした。後悔はしていない!!!!byミケ

ん？何か電波が入った気がするが気にしない

「ここはどこだ？」

上を見ると

どこまでも続く白い空間

下を見ると

どこまでも続く白い空間

前を見ると

どこまでも続く白い空間

右を見ると

土下座している幼女(さぶさぶらの金髪)

左を見ると

どこまでも続く白い空間

後ろを見ると

どこまでも続く白い空間

「、、、、、、」

上を見ると

どこまでも続く白い空間

下を見ると

どこまでも続く白い空間

前を見ると

どこまでも続く白い空間

右を見ると

ものつつつすごく土下座している幼女（ふるふる震えてる）

左を見ると

どこまでも続く白い空間

後ろを見ると

どこまでも続く白い空間

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

上を見ると

どこまでも続く白い空間

下を見ると

どこまでも続く白い空間

前を見ると

どこまでも続く白い空間

右を見ると

ものつつつすごく土下座している幼女（上目遣い＋涙目でちらちら見てる）

左を見ると

どこまでも続く白い空間

後ろを見ると

どこまでも続く白い空間

「（これはアレなのかっ！？アレしかないのかっ！？）」

今俺の目の前には、

1 真っ白な空間

2 テンプレ幼女による土下座

「よろしい、ならば転生だ！！」

「ふうえっ?!（ビクッ!）う、うええええええええええええんんん
んんんん!!!!（涙を流して逃げる幼女）」

ピンポン 幼女を落ち着かせるまでお待ちください

よろしい、ならばテンプレートだ（1）（後書き）

長いですわ〜

しめんなさい！！

よろしい、ならば死に際だ（前書き）

今回は、短いです。

よろしい、ならば死に際だ

さらに遡ること数時間前

俺、桐谷悠樹（きしやぶゆうじゅ）は悩んでいた。それは、今週末の義妹の誕生日プレゼントを買ったためだ。

俺の家族は、父、義母、義妹、俺、の四人家族だ。

母親は体が弱かったため、俺が3歳のときに病気で亡くなった。

母のことはあまり覚えていないが、とてもやさしくて笑顔が綺麗な人だった。

そして、俺が小学校に入学したころ父親が今の義母と再婚した。

義母には俺と一つ違いの「香織（かおり）」という娘がいた。そのころから両親の仕事が忙しくなり、香織の面倒は俺が見ることになっていった。二人でいることが多かったためか香織は俺に懐いた。それはすごく懐いて家ではよくふたりで遊んでいた。

自慢じゃないが香織はかわいい。きれいな黒髪、白い肌、可愛らしい瞳、ピンク色の唇。（イメージとしては某友人が少なさそうな人の集まりの戦国武将の名前の女の子を黒髪にした感じ）

そんな大切な妹のために、バイトの給料一か月分（今月は5万）を

持ってプレゼントを買いに来たわけだが、

「（良い物が見つからない、）」

どれだけ探しても『これだっ！』というものが見つからないため
学校が終わってから二時間ほど街を彷徨っていた。

「（そろそろ少し休むか）」

そんなことを考えながらアクセサリー店を出て歩いていると、ふと近くにあった露店が目を引いた。

「（おおっ！これはなかなかいいな）」

自分の中で『これだっ！』というものすぐに買った。

財布の中身がほぼ無くなってしまったが上機嫌で帰ろうとしたとき、
香織の姿が見えたので驚かせようとして後ろからゆっくり近づいて
ポンスと両肩に触れた瞬間
意識が白に覆われた

よろしい、ならば死に際だ（後書き）

今日中にもう一話いきたいです

よろしい、ならばテンプレだ(2) (前書き)

幼女の話し方え

完成度が低いミケを許してください

よろしい、ならばテンプレだ(2)

少し熱くなってしい幼女を怯えさせてしまった。

その後、幼女を落ち着かせるのが大変だった。

落ち着かせるために頭を撫でたらものすごく懐かれた。(金色の髪
の間に猫の耳が見えた)

とても可愛かったのもつと撫でたらものすごいことになった。(
想像にお任せします。byミケ)

ピンポーン 幼女が落ち着いたので説明してもらっています。

「簡単にまとめると、

1 幼女は神様である

2 私生活や仕事のストレスから酒を飲みまくって酔っ払った(神
様はエターナルロリータです)

3 そのまま寝てしまい風邪引いた

4 それでも仕事はやってくる

5 がんばったが、失敗した

6 俺の存在が消滅

7 魂回収+土下座

8 説明中 今ここ

というわけだな」

幼「は、はいそうなんですぅ／＼。クチユンツ!

もどそうとしたけど手遅れでどうにもならなくてえ／＼。クチユ

ンツ！

それであなたあ／＼、桐谷悠樹（桐谷悠樹）という存在を消してしまいましたあ／＼。クチュンツ！」

お前のせいかと思うと怒りが沸いてくるが、これだけ申し訳なくされると怒ることもできない。そしてくしゃみが可愛い。

俺はまだ高一で、まだまだたくさんやりたいことがあった。俺は彼女も欲しかったし、マンガやラノベの新刊も読んでいないし大切な義妹の誕生日プレゼントも渡せていない。

「存在が消滅って言うのはどんな意味なんだ？」

幼「あなたがいたと事実がなくなっただけ、いなかったことになりません、ほんとうにごめんなさいい（涙）・クチュンツ！」

「————そうか」

「（似合うと思って値段を見ないで買っちゃったアレ渡したかったけど、存在が消えてしまったことが救いなのかもしれないな）」

幼「あのうゝ考え事しているところ申し訳ないのですがあ、今後のことでお話があるのですがあ。クチユンツ！」

すっかり忘れられていた神様（幼）

幼「んゝ？なにか馬鹿にされたような気がしますけどあ、今はいいですう。クチユンツ！たぶん判っているとは思いますがあ、元のセカイの輪廻の輪から排除されてしまったあなたは元のセカイに戻ることはできないのでえ

1 別のセカイにトリップ

2 別のセカイに転生

3 ちよつと強引に神格化して部下に／／／（ポツ）

4 消滅

そんなことはおぼせませんが

の4つから選んでもらいますう。クチユンツ！」

ふむ、4は勿論なし、3は大変そうだから嫌、2か1だな。
とゆつか3はどうやるんだ？

「3はどうやるんだ？」

「————それはあ／／／簡単ですけど言いにくいのでえゝゝゝ、
ゝゝゝ、やりますかあ／／／」

かみさま（ようじょ）のどつこうがたてにわれている。

ゆうきはていそうのききをかんじた。こうかはばつぐんだ！！

ゆうきは「ういんにはなしをもどした。

「どんな世界に行くんだ？」

これは大切なことだ。心構えがあるかないかではだいぶ違う。決して逃げたわけではないんだっつ！

幼「むう、ざんねんですう（ボソツ）。なら、1か2ですねえ。クチユンツ！逝つてもらおうセカイは私が管理しているセカイになりますからあ

- 1、弾の リア
 - 2、魔法先生ネギま！
 - 3、イスクール・オブ・ザ・ツド
 - 4、PSYRN
- の4つのセカイのどれかですねえ。クチユンツ！」

はいアウトオオオオオオオオオオ！！！！

普通の世界でいいのにヤヴァイフラグがいつぱいだああああ！！！！

「3と4はなしで、あんなに危ない世界には逝きたくない！！となると1か2だが、ネギまのほうが好きだからネギまに転生させてく

れ」

アンチするかは気分と立場しだいだな

幼「ネギまのセカイですねえ。クチュンツ！転生すると元の名前と年齢は忘れてしまいます。なので、後で、名前をぶれぜんとします（最初のプレゼントが名前なんてえ／＼／＼）あとは、お詫びにいくつか願い事を叶えますから何がいいですかあ？クチュンツ！ちよつと無茶なことでもいいですよ／＼」

「（ゾクツ）なら、家族が幸せに暮らせるようにしてくれ。あと義妹に俺が買ったプレゼントを渡してくれ。あとは気と魔力を無限にして、身体はできるだけハイスペックにしてくれ」

幼「能力とかはいいんですかあ？いろいろ付けますよう？クチュンツ！」

これはもう決めてある

「そうだな。『魔具創造』の能力をくれないか」

幼「いいですよ、いろいろいじって死なないようにいろいろ強化しておきます。クチュンツ！もういいんですかあ？クチュンツ！」

「ああ、なら送ってくれ」

幼「わかりましたあ、でもその前におねがいしていいですかあ？ク
チュンツ！」

「ん、なんだ？」

幼「私には名前がないんですう。クチュンツ！あなたに付けてもら
っても良いですかあ？／＼／＼クチュンツ！」

「それぐらいならいくらでもいいぞ、、そうだなあ、アルスなん
てどうだ？」

アルス「アルスですかあ／＼／＼ではあなたには
——
と言う名前を送りましょうう。クチュンツ！私からの名前なので私
との縁が深くなりますようう。それではいつてらっしやい。死んだ
ら私のところに来る様にしましたけど（ボソツ）」

「えっ、な」

彼の身体が光りだして一瞬の後消えた

アルス「じゃあ、サクサク書き換えましょう　クチュンツ！」

アルス（幼女）は書類になにかを書き込み始めた

アルス「なんだか気分が良いですねえ　クチュンツ！ふわふわしますう　クチュンツ！」

だがアルス（神様）は気づかない。自分が思っていた以上に風邪が酷かったことに。

だから、あんな悲劇が起こってしまい慌てているいろ付け加えたのはまた別の話。

よろしい、ならばテンプレだ(2) (後書き)

もう一話 もう一話

神様(幼女)の名前はギリシャ神話の月の女神アルテミスからとりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0406y/>

にゃんこ(?)に転生ですか？ よろしい、ならば戦争(ネギまに転生)だ

2011年10月30日06時16分発行